

2回戦

10年春季リーグ
第2週・4月14日
2勝0敗

専大	001	000	000	1
駒大	310	020	02x	8

【駒大】	打安責
⑥ 岡	420
④ 赤木	200
③ 笠間	322
⑨ 山本	312
⑦ 谷口	300
PH 北嶋	100
7 嘉数駿	000
DH 山下	320
HD 石橋	100
② 上村新	212
⑤ 白崎浩	400
⑧ 中谷	200
計 2986	

▽二塁打=上村新
▽本塁打=山本

	回	打安責
○井口	7	2631
小倉	1	300
友滝	1	300

その言葉通り、4回から打たれて当たり前前という感じ。その後は普通に投げる事が出来た。

「打たれて当たり前前という感じ。その後は普通に投げる事が出来た。」

初回は満塁で二塁打を打つ上村新



海田以来の2年生先発

初登板・井口が抑え
勝ち点奪取!!

専大1-8駒大

3回、2死から三振を取る井口

先発・井口拓皓(経2)が7回まで好投し、主導権を握る。打線も主力が活躍。投打がかみ合い、連勝で勝ち点を奪う。1部との入替戦進出に向け、幸先の良いスタートを切った。

リーグ戦初登板の井口が大役を果たした。先発のマウンドに上がり、7回を投げ被安打3、1失点。奪三振も8つを数え、チームの勝ち点奪取に貢献した。

初登板の緊張からか、立ち上がりはリズムが悪く不安定な投球が続く。初回と2回の一、二塁のピンチは切り抜けるが、3回には1死から「失投のストリート」を痛打され左中間にソロ被弾。しかし、他の投手がブルペンで慌ただしく準備をし始める中、右腕は冷静になった。

「打たれて当たり前前という感じ。その後は普通に投げる事が出来た。」



試合前、言葉をお互いに井口と白崎勇

は降板するまで1人の走者も許さない完璧な投球。試合をつくる。頼れる先輩も後輩を援護する。初回に押し出し

次戦は昨季まで1部の強豪・青学大。「戦国東都」の一時代を築いた名門同士の対決だけに、注目が集まる。

で先制すると、続く女房役の上村新(営4)が右越二塁打を打ち2点を追加。試合前の風呂場で「勝たせてやるよ」と井口に話しかけた主将・笠間将裕(商4)も2安打2打点の活躍。最後は4番・山本祐大(法4)の前戦に続く左越2点本塁打で勝利を決定づけた。

新戦力の台頭はチームにとっても心強い。昨年までのエース・海田智行(現・日本生命)が今春に卒業。加茂勇作(国4)も調整が遅れ、投手陣の駒不足が心配されたが、この試合の投球で不安を一蹴した。前日に「何とか勝たせてあげたい」と話した小椋正博監督も「良く投げてくれた」と称えた。

写真=橋本圭史、榎島知佳、田上慧
文=山田遼太郎

《井口の投手成績》

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回
1番	三振	右飛			-ゴロ		
2番	遊ゴロ		三振		左飛		
3番	左中安		左本塁打			三ゴロ	
4番	死球		右飛			右飛	
5番	二併殺		空振			三振	
6番		左飛		二邪飛			遊ゴロ
7番		中安		空振			空振
8番		四球		空振			投ゴロ
9番		空振			右飛		

PICK UP★ 山下 高久雅(法3)

専大2回戦、先制の死球を受けた山下。その後2安打を打ち、5点目のホームも踏んだ。開幕スタメンには特別な「思い入れ」があった。オープン戦でスタメン出場を果たしたのはわずか1試合。他大で活躍している高校の同期に刺激を受け、「頑張らなくては」と思っていた中で得たチャンス。結果を出し、「打てて楽になった」と安堵の表情を見せた。青学大にも同学年は多い。ライバル心を燃やし次戦へ挑む。



◆やました たくま/1989年6月1日生まれ/外野手/右投右打/171センチ72キロ/広陵高出身